

# 平成30年度事業報告

## I 庶務に関する事項

### 1. 会員及び役職員の状況

#### (1) 会員

平成31年3月31日現在

区分	年度当初	加入	退会	年度末	備考
正会員	96		2	94	
準会員	5			5	
合計	101		2	99	

#### (2) 役員

区分	会長	副会長	専務理事	常務理事	理事	監事
人数	1	2	1	1	9	2

#### (3) 職員

区分	正職員	嘱託職員	臨時職員
人数	7	1	1

### 2. 総会

#### (1) 第63回通常総会

ア 期日 平成30年6月8日

イ 場所 熊谷市 ホテルハリテイジ

ウ 議事

第1号議案 平成29年度事業報告、収支決算及び公益目的支出計画実施報告書の承認について

第2号議案 平成30年度会費の賦課・徴収方法の決定について

第3号議案 平成30年度借入金最高限度額並びに借入先・預入先金融機関の決定について

第4号議案 平成30年度役員報酬額の承認について

第5号議案 定款の一部改正について

第6号議案 任期満了に伴う役員の改選について

付帯決議

### 3. 会議

#### (1) 役員会

区分	期日	場所	会議の内容
監査会	平成30年5月9日	農業技術研究センター 資料展示館	平成29年度事業報告について 収支計算書、財産目録について 公益目的支出計画実施報告書について
正副会長会議	平成30年5月21日	ホテルハリテイジ	総会の運営について 埼玉県家畜防疫互助基金の手数料について 新規職員の募集について
役員会	平成30年5月21日	ホテルハリテイジ	第63回通常総会に提出する議案について 新規職員の募集について 業務執行状況報告について
役員会	平成30年12月10日	ホテルハリテイジ	畜産経営の安定に関する施行規則に基づく積立金管理者の申請について 産業動物獣医師就学資金制度について

役員会	平成31年2月26日	ホテルヘリテイジ	平成31年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務規程の制定について 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務規程に基づく事務委託先及び事務手数料について 賃金規定の一部改正について
-----	------------	----------	---

(2) 毎月、職員定例会議を開催し、業務の推進と会務の円滑な運営を図った。

#### 4. 研修会

研修会名	研修内容	日時	場所	人数
中央畜産会技術研修会	中央畜産研修「養蜂」	平成30年10月31日 ～11月1日	福島県	1名
中央畜産会技術研修会	経営診断システム研修について	平成31年1月18日	東京都	1名
全国肉用牛振興基金協会 業務研修会	肉用子牛経理処理研修について	平成31年1月31日	東京都	1名
中央畜産会管理者研修会	有期労働契約に関する研修について	平成31年3月1日	東京都	2名

## II 業務に関する事項

### 1 生産技術向上対策に関する事業

#### (1) 畜産振興補助事業(地方競馬全国協会)

地方競馬全国協会から、補助を得て畜産経営技術指導等のため次の事業を実施した。

- ア 畜産経営の支援体制の強化を図る事業
- イ 地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資するための事業
- ウ 馬事・畜産普及啓発の推進体制の強化を図る事業

#### (2) 畜産経営技術指導事業(埼玉県)

畜産経営体の維持・安定を図るために、生産技術・財務管理などについて助言支援を行い経営の向上を図った。

- ア 畜産経営体支援指導研究会の開催  
畜産経営体に対する支援を効果的・効率的に行う手法等について、指導支援研究会で協議・検討した。
- イ 畜産経営技術総合支援の実施  
畜産経営体からの要請に基づき次のことを実施した。
  - ① 経営診断に基づいた助言
  - ② 財務諸表の作成、分析、生産技術に基づいた助言
  - ③ 助言内容の定着を図るための巡回相談

#### 経営診断指導実績

指導内容	実 績					備考
	酪農	肉用牛	養豚	養鶏	合計	
経営診断に基づく改善指導	3	2	1	0	6	
経営管理技術指導	17	7	0	0	24	
生産技術指導	43	1	0	0	44	
フォローアップ指導	3	2	1	0	6	
合 計	66	12	2	0	80	

#### ウ 地域支援の実施

畜産経営者・支援者を対象に、「農場 HACCP と JGAP の関連性等について」と題して、研修会を開催した。

また、県内の畜産経営の状況や畜産ブランドについて、資料の作成を行った。

(3) 経営革新指導事業（埼玉県）

畜産クラスター事業の推進やクラスター協議会の支援・指導を図るとともに、本事業で導入した施設・機械等の利用状況や事業効果を調査した。

- ア 畜産クラスター事業の推進 2 件
- イ 畜産クラスター協議会の指導 19 件
- ウ 導入した施設等の運営管理・利用状況及び事業効果の把握等 42 件

(4) 繁殖雌牛ゲノム情報収集事業（埼玉県）

肉用牛農家におけるゲノミック評価の活用方法を確立し、和牛子牛の資質向上による農家の収益力強化を図った。

調査頭数：250 頭

(5) 先端機器導入効果検証事業（埼玉県）

県先端機器導入支援事業で導入した繁殖管理機器の使用状況とその効果を検証し、生産性の向上を図った。

導入農家：3 戸

(6) 畜産団体運営費補助事業（埼玉県）

県の畜産振興に関する方針に基づき、畜産経営技術の向上、家畜登録、家畜改良増殖の普及に努め、家畜衛生指導、経営環境保全整備のための指導等行政の補完的役割を果たし会員及び関係機関と連帯し、会務の円滑な運営を図った。

(7) 乳用種雄牛後代検定事業（家畜改良事業団）

平成 25 年後代検定の成績採用娘牛に対して、交付金を支給した。

交付額：3 頭 30,000 円

(8) 乳用牛能力向上事業（家畜改良事業団）

乳用牛の遺伝子情報を用いたゲノミック評価の実施のために必要なサンプルの収集を行った。

サンプル収集頭数：6 頭

(9) 肉用牛経営安定対策補完事業（農畜産業振興機構）

肉用牛資源を確保するため、地域の中核的担い手が計画的に優良な繁殖雌牛を増頭した場合において、増頭実績に応じた奨励金の交付を行った。

交付額：17 戸 83 頭 7,820,000 円

(10) 畜産酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター・機械導入事業）（中央畜産会）

県内の畜産クラスター協議会の機械導入事業に係る事業参加要望書・申請書を取り纏め中央畜産会に提出した。

- ア 事業参加要望の部 平成 30 年度第 1 回事業参加要望内訳  
クラスター協議会数 5 協議会 取組主体件数 29 件  
平成 30 年度第 2 回事業参加要望内訳  
クラスター協議回数 2 協議会 取組主体件数 4 件
- イ 事業参加申請の部 平成 29 年度第 2 回事業参加申請内訳  
クラスター協議会数 6 協議会 取組主体件数 11 件  
平成 30 年度第 1 回事業参加申請内訳  
クラスター協議会数 5 協議会 取組主体件数 26 件
- ウ 調査の部 3 協議会 3 基の現地確認調査を実施

(11) 畜産酪農収益力強化整備等特別対策事業（全国推進事業）に係る全国実態調査事業（中央畜産会）

畜産経営の経営実態把握のための動向調査を実施した。

酪農経営実態動向調査 2 戸

- (12) 酪農経営体生産性向上緊急対策事業（楽酪事業）（中央畜産会）  
酪農家における労働負担軽減・省力化及び飼養管理技術の高度化に資する機械・装置の導入を行う農家支援と書類の取りまとめを行った。  
取り組み件数 1協議会 2機種 2酪農家
- (13) 酪農労働力省力化推進施設等緊急整備対策事業（楽酪G0事業）（中央畜産会）  
酪農家における労働負担軽減・省力化及び飼養管理技術の高度化に資する機械・装置の導入と施設整備を一体に行う農家支援を推進した。
- (14) 畜産現場における障がい者雇用促進支援事業（中央畜産会）  
畜産業における新たな労働力創出のために畜産現場における障がい者の参画を推進するため、特別支援学校の生徒・保護者を対象に現場見学会を開催した。  
ア 平成30年12月8日 深谷市 肉用牛農家 特別支援学校生徒・保護者 21名参加  
また、畜産に関心のある障がい者を対象に牧場体験実習を行った。  
イ 平成31年2月25～26日 児玉郡上里町 肉用牛法人 1名参加
- (15) 畜産環境整備リース事業（畜産環境整備機構）  
畜産経営に起因する環境汚染等を防止するとともに、環境保全技術の進歩に合わせて、飼養環境の整備をすすめるため、家畜ふん尿処理等に必要な施設・機械等を貸付け、畜産経営の環境保全と、経営の健全な発展を図った。
- (16) 貸付事業指導等事業（畜産近代化リース協会）  
畜産近代化リース協会が、県内畜産農家に貸付けた機械について、利用管理状況の調査指導を実施した。
- |   |          |    |    |   |          |
|---|----------|----|----|---|----------|
| ア | バルククーラー  | 1戸 | 1基 | } | 合計 2戸 2基 |
| イ | バーンクリーナー | 1戸 | 1基 |   |          |
- (17) 畜産・酪農生産力強化緊急対策事業（中央酪農会議）  
ア 性判別精液を利用し、乳用種後継牛の確保を図った農家に補助金を交付した。  
取組頭数 405頭 補助金 1,743,500円  
イ 性判別受精卵を利用し、優良乳用牛の確保を図った農家に補助金を交付した。  
取組頭数 3頭 補助金 300,000円  
ウ 和牛受精卵を利用し、和子牛生産の拡大を図った農家に補助金を交付した。  
取組頭数 118頭 補助金 2,132,500円
- (18) 家畜共進会の開催等  
ア 第54回埼玉県乳牛共進会 平成30年10月19日 農業技術研究センター 玉井試験場  
イ 市町村、会員団体等が主催する各種共進会、共励会の要請に応じて審査員を派遣し、団体に対して賞状、賞品を交付し、家畜改良の啓発普及を図った。

## 2 経営安定対策に関する事業

- (1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（農畜産業振興機構）（平成30年4月1日～平成31年2月26日）  
肉用牛経営については、素牛の導入から出荷まで一定期間を要し、かつ生産費に占める素畜費の割合が大きいことから、素畜価格と枝肉価格の水準によっては経営収支の悪化が懸念される。このため、契約生産者からの積立金、(独)農畜産業振興機構からの補助金をもって、肥育経営安定基金を造成し、肥育牛1頭当たりの四半期（月）推定粗収益が四半期（月）平均生産費を下回った場合に、契約肥育牛を該当四半期（月）に販売した者に対し、肥育牛補填金を交付することで、肉用牛肥育経営の安定を図った。  
ア 補填金交付契約者件数（平成30年12月29日現在）：54件  
イ 肉用牛肥育経営安定特別基金造成額

(平成30年度造成実績：平成30年4月～平成31年2月生産者積立金徴収分) (単位：頭、円)

種別	事業対象牛頭数	生産者積立金	機構補助金	基金造成額
肉専用種	3,302	16,510,000	49,530,000	66,040,000
交雑種	1,410	18,336,000	55,008,000	73,334,000
乳用種	1,639	18,029,000	54,087,000	72,116,000
合計	6,351	52,875,000	158,615,000	211,500,000

ウ 補填金交付状況

平成30年度(平成30年4月～30年12月) (単位：頭、円)

区分	交付頭数	補填金総額	平均補填金単価
肉専用種	1,715	36,374,900	21,384
交雑種	1,178	63,786,300	54,147
乳用種	1,716	54,007,600	31,472
計	4,609	154,168,800	33,449

- (2) 肉用牛肥育経営安定交付金制度準備業務受託(農畜産業振興機構) (平成30年10月3日～平成30年12月29日)  
畜産振興事業として実施している肉用牛肥育経営安定特別対策事業はTPP等関連法の施行に伴い畜産経営の安定に関する法律第3条の規定に基づく肉用牛の交付金の交付業務へと移行した。当該業務の円滑な制度移行のために本業務を受託実施した。
- (3) 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務受託(農畜産業振興機構) (平成30年12月30日～平成31年3月31日)  
畜産経営の安定に関する法律第3条の規定に基づく肉用牛の交付金の交付業務の円滑な実施を図るため、積立金管理者として制度の普及や交付金交付業務等を行った。

(4) 肉用子牛生産者補給金制度(農畜産業振興機構)

ア 個体登録頭数及び生産者積立金造成額(平成30年1月～12月) (単位：頭、円)

品種区分	登録頭数	積立金単価	積立金額	負担内訳		
				機構	県	生産者
黒毛和種	78	1,200	93,600	46,800	23,400	23,400
褐毛和種	0	4,600	0	0	0	0
その他肉専	0	12,400	0	0	0	0
乳用種	200	6,400	1,280,000	640,000	320,000	320,000
乳用交雑種	671	2,400	1,610,400	805,200	402,600	402,600
計	949	—	2,984,400	1,492,200	746,000	746,000

イ 補給金交付頭数及び補給金総額

平成30年度(平成30年1月～12月) (単位：頭、円)

区分	交付頭数	補給金単価	補給交付金額
黒毛和種	0	0	0
褐毛和種	0	0	0
その他肉専用種	0	16,000	0
乳用種	0	0	0
乳用交雑種	0	0	0
合計	0	0	0

平成30年度(平成30年1月～12月)においては、子牛価格が高値で推移したため、生産者補給金の発動には至らなかった。

(5) 肉用子牛生産者補給金制度運営適正化事業(農畜産業振興機構)

補給金制度運営適正化事業及び指定協会調査指導事業を実施し、事務委託先及び生産者に対す

る事務の適正な実施指導に努めた。

(6) 指定協会運営体制支援事業（農畜産業振興機構）

補給金制度を適正かつ円滑に推進するため、農畜産業振興機構の補助を受け、運営体制強化を図った。

(7) 肉用牛繁殖経営支援事業（農畜産業振興機構）

子牛価格が発動基準価格を下回った場合に、差額の一部を補助することにより繁殖経営の所得を確保し、肉用牛繁殖経営基盤の安定を図った。本年度については、第2四半期において「その他肉専用種」が事業発動となったが、本県においては対象牛がいなかったため交付金の発動には至らなかった。また、TPP11協定の発効に伴い、12月30日付けにて肉用子牛生産者補給金制度に一本化された。

(8) 養豚経営安定対策事業に係る業務委託事業（農畜産業振興機構）

豚枝肉平均価格が保証基準価格を下回った場合に発動される事業の内容及び、提出書類作成についての説明会を開催し、事業の適正な実施に努めた。

(9) 鶏卵価格安定対策事業（埼玉県）

鶏卵生産者が鶏卵価格差補てん金の財源として積み立てる生産者積立金のうち卵価が補てん基準価格を下回った月に係る生産者積立金の一部に対し助成した。

- ア 価格補てん発動月 平成30年4・5・6・7・8月 平成31年1・2月 7回
- イ 対象農家 15戸
- ウ 生産者積立金の県費一部助成金 7,392,238円

(10) 鶏卵生産者経営安定対策事業（日本養鶏協会）

県内の事業参加生産者に対し、生産者積立金等の納付状況、報告書類の提出状況の管理に関する事務、鶏卵販売実績報告書の確認調査、また採卵用成鶏めす飼養羽数10万羽未満の確認のための現地調査等の業務を受託し、事業の適正な実施に努めた。

(11) 東京電力原発事故に係る肉用牛経営損害賠償窓口事業（会単独事業）

東京電力福島原発事故に伴う放射性物質の流出により受けた肉用牛経営における損害賠償について、本会が県協議会の取り纏め窓口となり事業を実施した。

対象者	請求月	戸数	請求頭数	請求額	支払状況
肉用牛肥育経営	平成29年4月～30年3月	37戸	2,516頭	6,182,904円	請求中

### 3 家畜改良対策に関する事業

(1) 家畜登録事業（日本ホルスタイン登録協会、日本養豚協会、全国和牛登録協会）

家畜の改良増殖を推進して優良種畜を確保し、生産効率向上のため、家畜改良増殖法に基づき、登録3団体の委託団体として登録業務の推進を図った。

家畜登録実績

(単位：件・%)

ホルスタイン種				種 豚				和 牛			
区分	計画	実績	対計画	区分	計画	実績	対計画	区分	計画	実績	対計画
血統登録	330	405	122.7	種豚登録	100	95	95.0	子牛登記	1,000	1,305	130.5
移動証明	30	11	36.7	繁殖産子産肉	40	0	0	基本登録	150	225	150.0
牛群審査	80	155	193.8	子豚登記	170	107	62.9	移 動	30	32	106.6
体型調査	60	49	81.7	子・種移動	40	10	25.0	遺伝子型他	320	326	101.8
検定証明	300	468	156.0	その他	20	93	465.0	その他	—	20	—
その他	0	7	—	黒豚証明他	130	70	53.8				
計	800	1,099	137.4	計	500	375	75.0	計	1,500	1,908	127.2

(2) 牛凍結精液配布事業

乳牛・和牛の改良を推進するため家畜改良事業団等の販売窓口団体として凍結精液等の販売を行った。

配布実績

(単位：本 %)

区 分		前年実績	本年実績	対前年比
家畜改良事業団	乳牛(一般)	399	235	58.9
	乳牛(性判別♀)	719	639	88.9
	和牛	4,915	5,479	111.5
ジェネティクス北海道	乳牛(一般)	543	656	120.8
	乳牛(性判別♀)	729	638	87.5
	和牛	611	633	103.6
十勝家畜人工授精所	乳牛(一般)	265	239	90.2
	乳牛(性判別♀)	150	52	34.7
	和牛	962	618	64.2
輸入精液・その他	乳牛	976	910	93.2
他県・その他授精所	和牛	1,065	1,153	108.3
合 計		11,334	11,252	99.3

[参考] 年度別精液配布実績推移

(単位：本、%)

区 分	乳 牛		和 牛		合 計	
	取扱実績	対前年比	取扱実績	対前年比	取扱実績	対前年比
21	7,046	89.2	5,530	90.3	13,576	96.8
22	5,960	84.6	6,717	121.5	12,677	93.4
23	5,338	89.6	5,795	86.3	11,133	87.8
24	5,153	96.5	5,855	101.0	11,008	98.9
25	4,758	92.3	7,088	121.1	11,846	107.6
26	3,704	77.8	5,729	80.8	9,433	79.6
27	4,465	120.5	5,926	103.4	10,391	110.2
28	3,780	84.7	7,228	122.0	11,008	105.9
29	3,781	100.0	7,553	104.5	11,334	103.0
30	3,369	89.1	7,883	104.4	11,252	99.3

4 家畜防疫体制確保に関する事業

(1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業(農林水産省)

ヨーネ病、牛白血病等、BVD-MDの発生、流行防止対策、オーエスキー病の清浄性の維持を推進し、家畜の損耗防止を図った。また、生産者による飼養衛生管理の向上に努めた。

ア ヨーネ病早期清浄化対策

ヨーネ病まん延防止等のための自主とう汰等を推進した。

イ 牛白血病感染拡大防止対策

牛白血病の検査等を推進した。

① 浸潤状況の確認等

検査頭数 1,064頭

② 吸血昆虫の忌避・駆除対策

対象農家 2戸

ウ BVD-MD対策

BVD-MDの検査等を推進した。

検査頭数 135頭

エ オーエスキー病清浄化対策

オーエスキーの抗体検査等を推進した。

検査頭数 196頭

オ 農場飼養衛生管理強化対策

飼養衛生管理基準に基づき、獣医師等による衛生指導を実施した。

指導農家 19戸

(2) 牛疾病検査円滑化推進対策事業（農林水産省）

BSEを早期に根絶し、生産者や消費者の安心と信頼を回復するために、死亡牛の円滑かつ適正な処理体制の確保と、その検査を推進した。

ア 協議会の開催 1回

イ 死亡牛輸送・処理費の補助

- ① 対象死亡牛頭数 48ヶ月齢以上 399頭
- ② 補助金 輸送費補助：1,369,500円  
処理費補助：202,500円 合計 1,572,000円

(3) 家畜防疫互助基金支援事業（農畜産業振興機構）

口蹄疫、豚コレラ等の海外悪性伝染病の発生に備えて、互助基金の加入促進を実施した。

平成30年度生産者積立金状況 (単位：頭、円)

区分	契約戸数	契約頭数	積立金額
養豚	38	74,940	3,053,500
乳用牛・肉用牛	155	20,561	2,822,765

(4) 馬飼養衛生管理特別対策事業（中央畜産会）

馬飼養衛生管理体制の総合的な整備を図り、効果的な馬防疫を推進し、多様な飼養目的、飼養形態下にある馬衛生の向上に資するため、馬飼養衛生管理体制整備委員会・技術講習会の開催、地域馬獣医療実態調査を実施した。

ア 委員会の開催1回

イ 技術講習会の開催1回 演題：「馬の日常管理において遭遇しやすい疾病の管理と治療」

ウ 地域馬獣医療実態調査 対象：馬飼養者60戸

(5) 馬インフルエンザ等防疫強化特別対策事業（中央畜産会）

競走馬以外の乗用馬等に対する馬インフルエンザワクチン接種の推進を図る事により、発生リスク等の低減、清浄化を図った。

ア 馬インフルエンザワクチン接種

- ① 接種頭数 247頭
- ① 補助金 456,950円

(6) 地域自衛防疫取組促進対策事業（家畜衛生対策推進協議会）

生産現場における家畜防疫体制の強化を図るため、伝染性疾病発生時の防疫対応を支援する防疫演習等を行った。また、競走用馬、輸入馬における馬伝染性貧血検査を推進した。

ア 防疫演習

- ① 高病原性鳥インフルエンザ防疫演習 154名参加 伊奈町 平成30年10月30日
- ② 口蹄疫防疫演習（川越家保管内） 34名参加 日高市 平成31年2月6日
- 33名参加 東松山市 平成31年2月12日
- ③ 豚コレラ・口蹄疫防疫演習（中央家保管内） 32名参加 桶川市 平成31年2月15日

イ 馬伝染性貧血検査 検査頭数1頭

(7) 畜産GAP拡大推進加速化事業（中央畜産会）

日本版畜産GAPの認証取得、普及推進に係る取り組みを支援し、畜産GAPの拡大を推進した。

日本版畜産GAP指導員育成研修会への参加 県内関係者4名参加

(8) 予防接種事業（会単独事業）

家畜の損耗防止を図るため、次のとおり予防接種を実施した。

予防接種名	頭数	予防接種名	頭数
豚オーエスキー病	4,920頭	牛伝染性鼻気管炎	423頭
豚日本脳炎	358頭	牛アカバネ病	266頭
豚丹毒	11,949頭	牛イバラキ病	307頭
豚異常産	99頭		



## 5 消費者信頼確保に関する事業

### (1) 畜産関係団体調整機能強化事業（中央畜産会）

組織の活性化を推進するため、畜産団体の支援を図るとともに、浦和競馬場において支援活動を行い、地方競馬の発展を支援した。

- ア 仲間づくり 3回
- イ 畜産経営相談窓口整備 6日/月
- ウ 浦和競馬支援 3回

### (2) 畜産女性経営者育成強化事業（中央畜産会）

畜産経営の中核的な役割への女性参画の拡大及び女性の地位向上を目指し、女性自身の経営者能力の向上等を図った。

- ア 検討会の開催 平成31年2月26日 1回
- イ 畜産女性研修視察交流会 平成30年12月7日 1回
- ウ 農業簿記研修会 平成31年2月1日 }  
平成31年3月11日 } 2回

### (3) 畜産振興事業（県浦和競馬組合）

浦和競馬支援のため、競馬場内での畜産物の販売等ファンサービス活性化対策及び場外の畜産イベントや広報誌による宣伝活動を行った。

### (4) 畜産物消費拡大事業（会独自事業）

彩の国畜産物の販売促進や安全安心のためのシール発行及び畜産イベント等に参加し、県内畜産物の消費拡大を図った。

ア 2018 彩の国食と農林業ドリームフェスタの開催に合わせ「おいしさいっぱい畜産フェア」を同時開催した。

平成30年11月17～18日 朝霞市「朝霞の森」

### (5) 馬事畜産振興推進事業（馬事畜産振興協議会）

埼玉県馬事畜産振興協議会を開催するとともに、浦和競馬において、冠レースを開催した。

### (6) 畜産振興諸活動（会独自事業）

関係機関の審議会、協議会等に本会の役員が委員、役員等として就任し本県畜産の振興に寄与した。また、本会広報誌「畜産埼玉」を2回/年発行し、会員及び関係機関に配布した。

## 6 畜産関係団体の事務受託

本会業務に関連のある団体の事務局を受託し、各種事業の円滑な推進を図った。

### (1) 埼玉県酪農協会・・・会員：団体12、個人69

県B&Wショウ、後継者の集い、共進会協力、酪農婦人懇談会の開催、全酪新報の配布

### (2) 埼玉県肉用牛経営者協会・・・会員：団体6、個人48、賛助6

研修会、セミナー、その他

### (3) 埼玉県養豚協会・・・会員：団体8、個人52、賛助23

埼玉県養豚経営安定対策事業、研修会、青年部活動、その他（JPPA業務）

### (4) 埼玉県養鶏協会・・・会員：団体9、個人17、賛助41

研修会、青年部活動、日鶏協関東甲信越養鶏大会、その他

### (5) 埼玉県養蜂協会・・・会員：個人133

ハチミツ品評会、ハチミツ即売会、研修会、養蜂物資斡旋窓口、その他

- (6) 埼玉県畜産技術振興会・・・会員：団体 11、個人 127（繁殖部会 127）  
技術研修会、受託事業、改良増殖事業、技術発表全国大会の参加、その他
- (7) 埼玉県畜産懇話会・・・・・・・・・・会員：団体 20  
畜産情勢の情報交換、消費促進活動、畜産施策の要請、その他
- (8) 畜産女性いきいきネットワーク埼玉・・・会員：個人 19、団体 5  
情報交換、消費者との交流、子供たちへの食育、後継者育成支援、その他
- (9) 埼玉県牛群検定組合・・・会員：個人 23  
研修会・勉強会の開催、その他
- (10) 埼玉県粗飼料利用研究会・・・会員：個人 65、団体 9、賛助 8  
会報「ふおーれーじ」の発行、研修会・検討会の開催
- (11) 埼玉県馬事畜産振興協議会・・・会員：団体 14  
協議会の開催、伝統事業等の保存、浦和競馬畜産フェア・冠レースの開催
- (12) 埼玉県秩父高原牧場利用者互助会・・・会員：個人 40、団体 2  
牧場預託牛の事故等に対し補助金の交付、衛生対策の実施